

登戸研究所資料館 第4回企画展 記念講演会

# 本土決戦・登戸研究所・中野学校

明治大学平和教育登戸研究所資料館館長  
山田 朗（文学部教授）

## はじめに

- 〔1〕 2013年4月に開設された明治大学中野キャンパスは、かつての陸軍中野学校の跡地
- 〔2〕 明治大学生田キャンパス（川崎市多摩区）は、かつての陸軍登戸研究所の跡地
- 〔3〕 両者を結ぶキーワード：〈秘密戦〉  
〈秘密戦〉のためのヒトづくり＝中野学校  
〈秘密戦〉のためのモノづくり＝登戸研究所
- 〔4〕 本土決戦における両者の役割・関係を探る

# 明治大学における戦争遺跡 生田キャンパス



1947年 GHQ撮影 国土地理院所蔵

明治大学における戦争遺跡  
生田キャンパス

陸軍登戸研究所関係の遺跡(1)



弥心神社（現・生田神社）



陸軍の星マーク  
のに入った消火栓



動物慰霊碑

〈表面〉動物慰霊碑

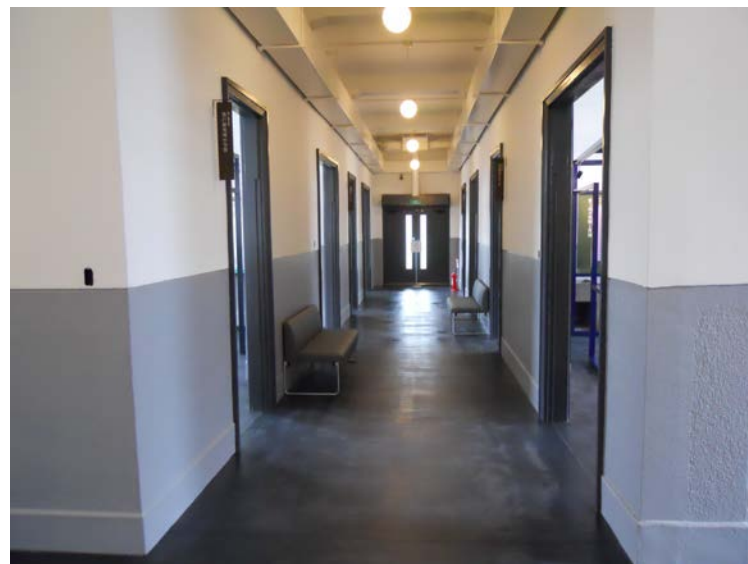
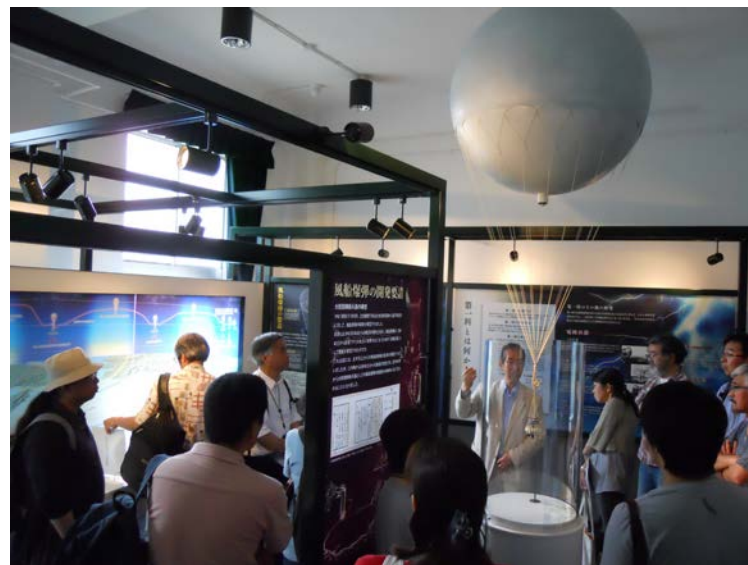
篠田鏢書

〈裏面〉昭和十八年三月

陸軍登戸研究所建之

# 明治大学における戦争遺跡 生田キャンパス

## 陸軍登戸研究所関係の遺跡(2)



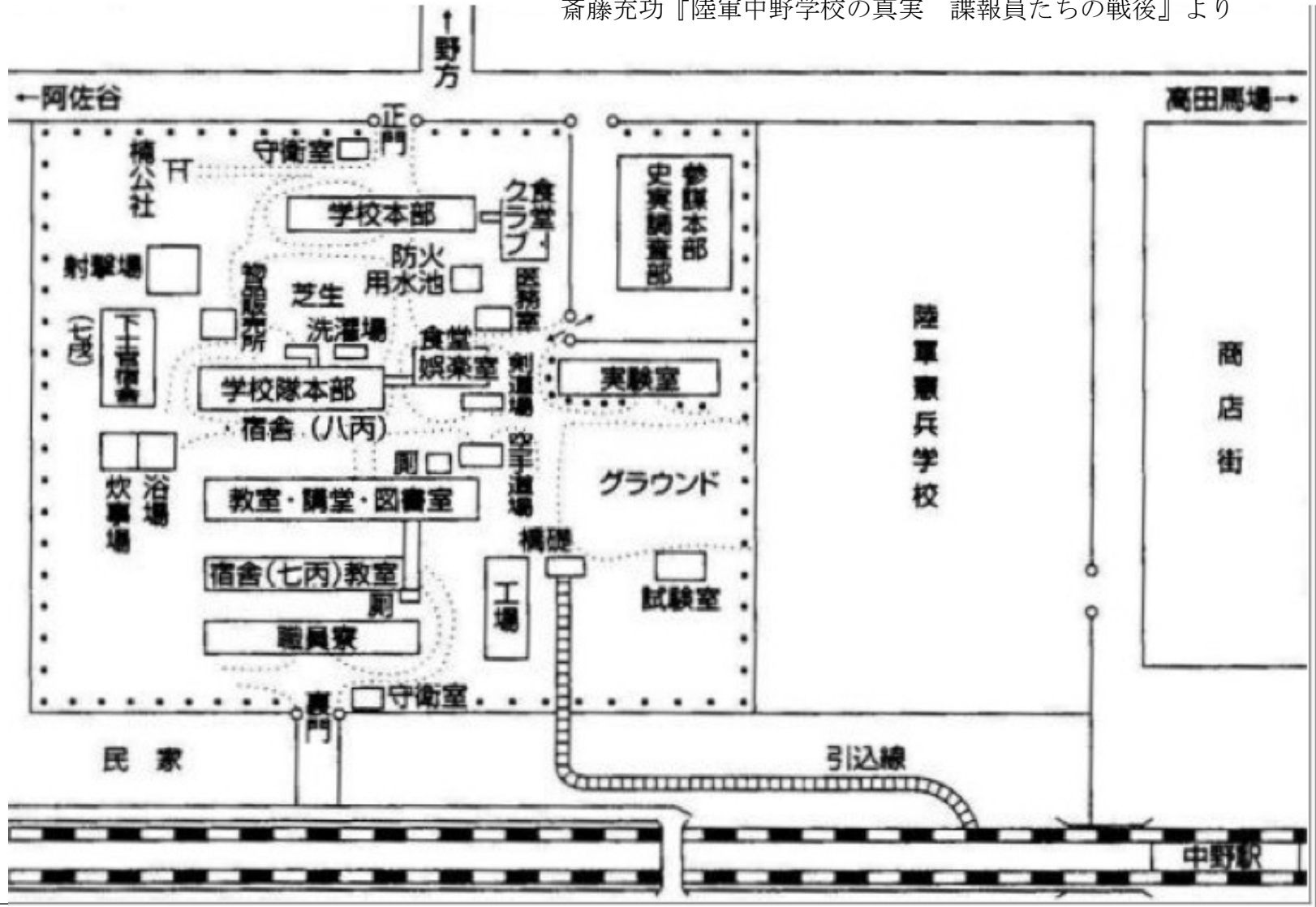
36号棟（生物兵器開発）  
＝登戸研究所資料館（2010年3月開館）  
水～土10時～16時開館 入場無料  
上：外観、右：内部

# 明治大学における戦争遺跡

中野キャンパス

## 陸軍中野学校の跡地の一部

齋藤充功『陸軍中野学校の真実 諜報員たちの戦後』より

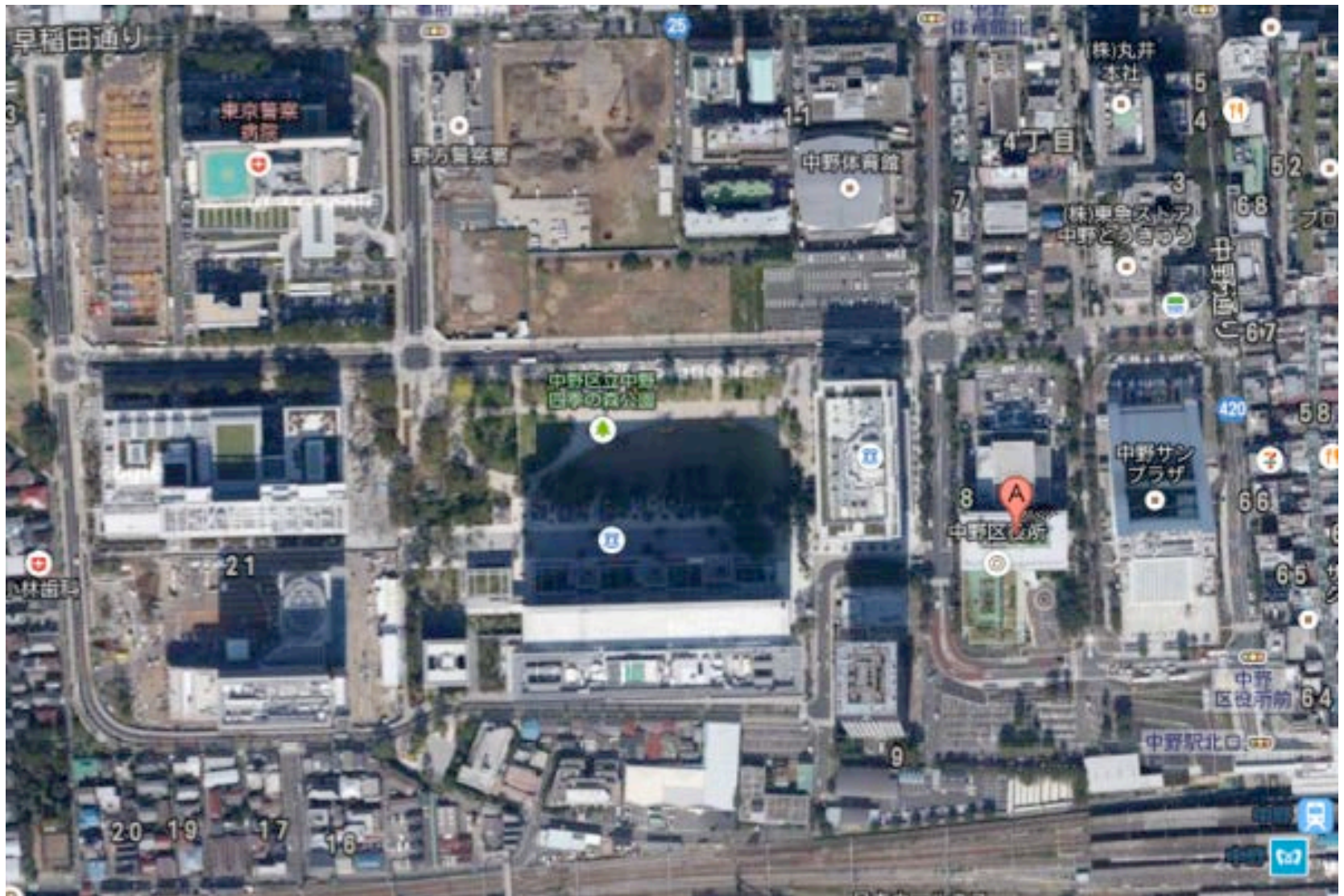


# 明治大学における戦争遺跡

©google map

中野キャンパス

陸軍中野学校の跡地の一部



# 明治大学における戦争遺跡

## 中野キャンパス





# I 〈秘密戦〉における登戸研究所と中野学校の役割

## 1 〈秘密戦〉とは何か

[1] 戦争には必ず付随するが、歴史に記録されない  
〈裏側の戦争〉

[2] 戦時に限らず、平時においても密かに行われている  
〈水面下の戦争〉

[3] 〈秘密戦〉の4つ要素：

**防諜・諜報・謀略・宣伝**（戦時プロパガンダ）

（これらのうち防諜・諜報・宣伝は〈情報戦〉とく  
くることができる）

# I 〈秘密戦〉における登戸研究所と中野学校の役割

## 2 陸軍登戸研究所：

陸軍における〈秘密戦〉兵器・資材の専門開発機関

1927年：陸軍科学研究所秘密戦資材研究室（篠田研究室）

1937年：陸軍科学研究所登戸実験場（電波兵器研究）

1939年9月：陸軍科学研究所登戸出張所

（電波兵器と「特殊科学材料」研究）

第一科（電波兵器）、第二科（毒物・薬物・生物化学兵器・スパイ用品）、第三科（偽札）が増設

1942年10月：第九陸軍技術研究所

（第一科で風船爆弾研究・開発）

1945年5月：本土決戦にそなえ長野県伊那地方等に移転

# I 〈秘密戦〉における登戸研究所と中野学校の役割

## 3 陸軍中野学校：

日本陸軍における〈秘密戦〉要員の専門育成機関

1938年1月：後方勤務要員養成所

（第1期生19名採用、九段・愛国婦人会別館）

1939年4月：中野の旧電信隊跡（現・JR中野駅北側）に

1940年8月：陸軍中野学校と改称

1944年8月：静岡県磐田郡に二俣分校設置

1945年4月：本土決戦にそなえ群馬県富岡町に移転

1938～1945年：

2,131名が卒業（戦死289名・不明376名）

# I 〈秘密戦〉における登戸研究所と中野学校の役割

## 4 〈秘密戦〉の担い手たち

### [1] 陸軍中野学校と陸軍登戸研究所

(ともに参謀本部第8課＝謀略課の指揮下)

### [2] 関東軍情報部

(1940年4月創設、本部：ハルビン特務機関)

登戸研究所で開発した軍用犬追跡防避剤（え号剤）  
を実験、警戒犬突破方法の研究

### [3] 憲兵隊

憲兵学校には『秘密戦関係』と題するテキストが  
あった



『秘密戦関係』

防諜教育に用いられた憲兵学校のテキスト。  
秘密インキの解説、他国諜報機構の概説など、  
憲兵教育の様々な資料を綴ったもの。

昭和大学 蔵書

『細菌学雑誌』

北里研究所の関係者を中心とした論文集。  
狂犬病、チフス菌などに関する論文が収められて  
います。表紙に登戸研究所の蔵書印があることから、  
所員の情報収集源であったことがうかがえます。

木下登紀江 蔵書

登戸研究所資料館 【第三展示室】

## Ⅱ 日本軍の〈秘密戦〉の歴史

### 1 日清・日露戦争期

〔1〕 参謀本部直属のスパイ・情報収集者を朝鮮半島や大陸に派遣

〔2〕 日露戦争～シベリア出兵期のスパイ

代表例：石光真清 → 一般人（商人・僧侶など）に変装して情報収集や工作にあたる

〔3〕 日露戦争の情報収集・謀略

代表例：明石元二郎 → ストックホルムなどを拠点に軍事情報の収集、ポーランド独立派等に武器・資金援助

〔4〕 中国大陸における特務機関（諜報・謀略機関）

## Ⅱ 日本軍の〈秘密戦〉の歴史

### 2 第1次世界大戦（1914-18年）期

〔1〕 第1次世界大戦を境に**科学技術**を応用した〈秘密戦〉が欧米で発達

→ 暗号・通信傍受（盗聴）・秘密撮影・宣伝（戦時プロパガンダ）など

〔2〕 **ワシントン会議**（1921-22年）の際に日本側はこの分野の立ち遅れを痛感

→ 陸軍科学研究所**秘密戦資材研究室**の設置（1927年）

→ 室長：篠田鏖大尉（陸士26期・工学博士）  
（のちに登戸研究所所長・陸軍中将）

## Ⅱ 日本軍の〈秘密戦〉の歴史

### 3 満州事変期（1931年9月～）

〔1〕 満洲事変と国際的孤立

〔2〕 ドイツ再軍備（1935年）・軍縮条約失効（1936年12月末）にともなう世界的な軍拡競争

→ 航空技術の飛躍的発達

世界の「新秩序」構築をめざす動き活発化

→ 世界的に〈秘密戦〉が活発化



## Ⅱ 日本軍の〈秘密戦〉の歴史

### 4 日中戦争期（1937年7月～）

〔1〕 対中国だけでなく**対欧米〈秘密戦〉**が活発に

→ 中国を支援する英・米・仏・ソ連に対する防  
諜・諜報戦（上海・香港などが舞台に）

〔2〕 **参謀本部第2部第8課（大本営謀略課）の設置**  
（1937年11月：課長・影佐禎昭大佐）

→ **中野学校と登戸研究所を実質的に指揮する中枢  
の成立**

→ 秋草俊・福本亀治・岩畔豪雄らの主導で  
**後方勤務要員養成所設置**（1938年1月）

## Ⅱ 日本軍の〈秘密戦〉の歴史

### 4 日中戦争期（1937年7月～）

- [3] 憲兵・特務機関を中心とした〈秘密戦〉の遂行
  - 登戸研究所（陸軍科学研究所登戸出張所）の機能強化（1939年～）
  - 登戸研究所・三科体制の成立
  - 中国に対する通貨謀略戦（偽札散布）も実施（1939年～）

## Ⅱ 日本軍の〈秘密戦〉の歴史

### 5 第2次世界大戦期（1939年9月～1945年）

#### 〔1〕 日ソ関係の緊張にともなう〈秘密戦〉

→ 通信諜報の発達、白系ロシア人・朝鮮族をスパイとして潜入させる

#### 〔2〕 日独伊三国同盟の締結（1940年9月）、対英米関係の緊張にともなう〈秘密戦〉

→ アジア諸国・地域別の〈秘密戦〉の展開  
（1940年8月：陸軍中野学校設置）

→ アジア太平洋戦争開戦前から北米・アジア・太平洋各地にスパイ配置

## Ⅱ 日本軍の〈秘密戦〉の歴史

### 5 第2次世界大戦期（1939年9月～1945年）

#### 〔3〕 アジア太平洋戦争にともなう〈秘密戦〉

- 陸海軍は在米日系人にまぎれこませてスパイを潜入させる（日系人隔離でスパイ網壊滅）
- 外務省は中立国人を雇ってアメリカに潜入させた（東工作）
- 陸軍：インドへ工作員潜入、アジア各地に残置工作員の配置（ゲリラ戦を想定）

### Ⅲ アジア太平洋戦争末期の〈秘密戦〉

#### 1 潜入・残置工作員の配置（中野学校出身者）

##### 〔1〕 対インド工作：

- ・ 第25軍の **F機関**（藤原岩市少佐）
  - インド国民軍を組織
- ・ **岩畔機関**（岩畔豪雄大佐）設置（1942年3月）
  - インド独立連盟本部（バンコク）、インド国民軍司令部（シンガポール）、闘士養成学校（スワラジ学院）、対インド宣伝ラジオ放送、インド人工作員のインド潜入
  - 独立連盟幹部と国民軍幹部との内紛、  
**ビハリ・ボース**と現地インド人との対立

### Ⅲ アジア太平洋戦争末期の〈秘密戦〉

#### 1 潜入・残置工作員の配置（中野学校出身者）

##### 〔1〕 対インド工作：

- ・ **光機関**（山本敏大佐）の設置（1943年3月）

**チャンドラボース**来日（5月）

自由インド仮政府樹立（10月）

自由インド国民軍最高指揮官に

- **インパール作戦**（1944年3月～7月）に呼応して  
インド国民軍も進攻、工作員潜入

### Ⅲ アジア太平洋戦争末期の〈秘密戦〉

#### 1 潜入・残置工作員の配置（中野学校出身者）

##### [2] 残置工作員の配置（1944年～）

日本軍後退に対応して後方攪乱・連絡のため

→ ビルマ、フィリピン、中国、太平洋の島々に残置工作員を配置

（主に中野学校出身者）

### Ⅲ アジア太平洋戦争末期の〈秘密戦〉

#### 2 沖縄における〈秘密戦〉

##### 〔1〕 第32軍（沖縄守備軍）新設

（1944年3月22日）と急激な増強（7月～9月）

##### 〔2〕 沖縄本島

2個（当初は3個）師団＋1個混成旅団を配置

→ 第62師団・第24師団・独立混成第44旅団

（第9師団はレイテ決戦に呼応して転出）



### Ⅲ アジア太平洋戦争末期の〈秘密戦〉

#### 2 沖縄における〈秘密戦〉

独混44旅団の第2歩兵隊（宇土武彦大佐）

＝「国頭支隊」

沖縄本島北部の国頭地区で〈秘密戦〉・遊撃戦を担当

米軍上陸後、遊撃戦を展開

→ 防諜作戦として一般住民をも殺傷

（大宜味村渡野喜屋）

## IV 本土決戦と〈秘密戦〉

### 1 本土防衛から〈本土決戦〉に

#### 〔1〕本土での「決戦」構想の出現

サイパン陥落直後の「陸海軍爾後ノ作戦指導大綱」  
(1944. 7. 21)

- 本土での「決戦」を一つの選択肢として決定
- その他に比島方面、「連絡圏域」＝沖縄・台湾方面、千島・北海道方面での「決戦」を想定
- 1944. 10を目途として「決戦準備ヲ概成スル」とした

## IV 本土決戦と〈秘密戦〉

### 1 本土防衛から〈本土決戦〉に

#### 〔2〕 本土での作戦準備進捗せず

南方資源地帯から日本本土への海上輸送路が脅かされ、本土の物資不足深刻に

東部軍司令部は10.13 にようやく沿岸築城（砲台・レーダー基地）の開始を命令

## IV 本土決戦と〈秘密戦〉

### 1 本土防衛から〈本土決戦〉に

#### [3] 例外的に進展した部門

「松代大本営」建設工事

「風船爆弾」の開発と実戦投入

（当初は生物兵器＝牛疫ウィルス搭載を予定）

→ ただし、「風船爆弾」は〈決戦兵器〉ではなく、  
後方攪乱のための〈謀略兵器〉

[4] 「レイテ決戦」（捷一号作戦）の発動（10.18）  
により、〈本土決戦〉準備はさらに遅延

## IV 本土決戦と〈秘密戦〉

### 2 本土決戦準備の本格化

[1] 「レイテ決戦」断念後、本土決戦準備は本格化  
「帝国陸海軍作戦計画大綱」 (1945. 1. 20)

「皇土特二本土及朝鮮ノ作戦準備」を「本年初秋迄二概成ス」と決定

[2] 本土決戦作戦計画の策定

大本営陸軍部「国土築城実施要綱」発令 (3. 16)

1945. 7までの全陣地の骨格完成、1945. 10 までの完成を命ずる

大本営陸軍部「決号作戦準備要綱」発令 (4. 8)

## IV 本土決戦と〈秘密戦〉

### 2 〈本土決戦〉準備の本格化

#### [3] 〈本土決戦〉のための兵力総動員

敗戦時、陸軍は内地・朝鮮に294万の兵力を展開

→ 新たに150万人を徴集・召集して部隊を編成  
(装備劣悪・練度も低い)

→ 内陸防衛作戦から次第に水際防衛作戦へと逆戻り(第1線部隊は水際で「玉砕」想定)

→ 総司令部(大本営)のみ松代へ後退

## IV 本土決戦と〈秘密戦〉

### 2 〈本土決戦〉準備の本格化

[4] 〈本土決戦〉の労働力・補助兵力総動員

義勇兵役法の公布（6.23）：

国民義勇隊・国民義勇戦闘隊の組織

→ 〈本土決戦〉のための労働力兼補助戦力

## IV 本土決戦と〈秘密戦〉

### 3 〈本土決戦〉準備の実態

[1] 特攻兵器の生産と出撃基地（沿岸部）の建設

→ 「震洋」「回天」「伏龍」など

[2] 作戦用道路・飛行場の建設

→ 関東地区「リ号演習」

[3] 沿岸部での陣地構築

[4] 軍司令部機能・軍需工場の内陸部移転

→ 特に長野県・群馬県

陸軍登戸研究所などの「秘密戦」研究部門、中野学校など「秘密戦」実施部門も



## IV 本土決戦と〈秘密戦〉

### 4 決戦準備と〈秘密戦〉関係諸機関の疎開・移転

#### 〔1〕 登戸研究所の疎開（1944年末～1945年5月）

電波兵器（レーダー）関係

→ 多摩陸軍技術研究所（多摩研）に統合

本部・第二科・第四科

→ 長野県の伊那郡（現・駒ヶ根市）

第一科（電波兵器）

→ 長野県北安曇郡・兵庫県（関西分廠）

第三科（偽札）

→ 福井県武生（和紙製造）、印刷工場は登戸に残る

## IV 本土決戦と〈秘密戦〉

### 4 決戦準備と〈秘密戦〉関係諸機関の疎開・移転

#### [2] 陸軍中野学校

教育の重点を遊撃戦研究に（1943年8月～）

静岡県二俣町（現・天竜市）に二俣分教場  
（分校）を開設、遊撃戦幹部の養成

（1944年8月～）

本部も群馬県富岡に疎開（1945年3月）

## Ⅱ 本土決戦と〈秘密戦〉

### 5 本土での〈秘密戦〉の準備

〔1〕 遊撃戦の準備：『遊撃戦戦闘教令（案）』の作成

→ 敵中潜入・奇襲・陽動・謀略工作・後方攪乱などを主たる目的

**薬物・細菌・時限爆弾（焼夷弾）などの使用**

→ 1944. 12 天竜川下流の河川敷で毒ガスの雨下実験（飛行機から行軍する一個小隊にイペリットガスを散布）

## Ⅱ 本土決戦と〈秘密戦〉

### 5 本土決戦（本土での〈秘密戦〉）の準備

#### 〔2〕 登戸研究所における遊撃戦準備

第二科・第四科では、遊撃戦用の簡便な携帯兵器の開発・製造

→ 末期における重点開発課題：

◎研う：何にでも充填できる粘土状の爆薬

◎マルケ：熱線（赤外線）誘導式の爆弾

◎く号：怪力光線・怪力電波

◎細菌兵器

大量の石井式濾過器濾過筒を伊那地区に搬入

→ 細菌戦の準備か

## Ⅱ 本土決戦と〈秘密戦〉

### 5 本土決戦（本土での〈秘密戦〉）の準備

#### 〔3〕 登戸研究所（研究開発）と中野学校（人材養成）の融合

→ 本土決戦に際しては、〈秘密戦〉関係機関は、地理的にも接近し、開発・製造・実戦が融合する体制になりつつあった。

登戸研究所が北安曇・伊那、中野学校が二俣・富岡

→ いずれも松代を防衛する重要拠点



新しく展示された  
石井式濾水機濾過筒  
(伴幸雄氏寄贈)

登戸研究所資料館  
【第五展示室】

新しく展示された石井式濾水機濾過筒（接写）



## おわりに

### 〔1〕 戦争・〈秘密戦〉の記憶を残す重要性

戦争体験者の減少

→ 意識的・組織的に残さないと消滅

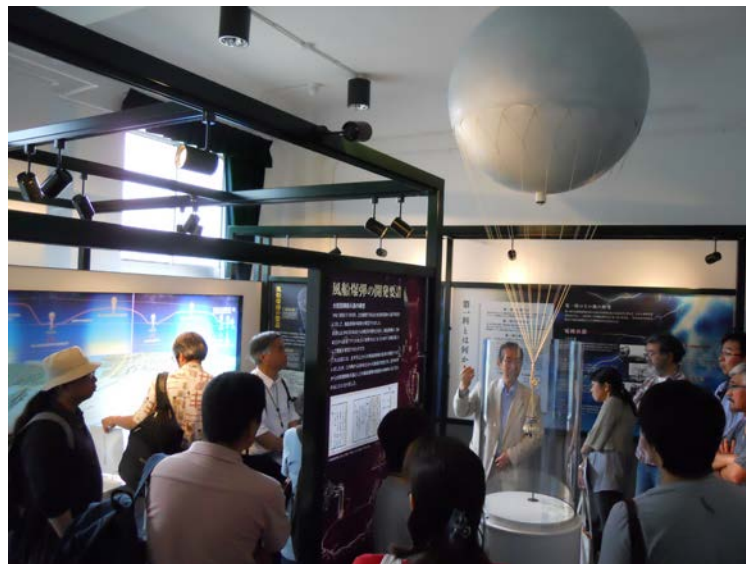
### 〔2〕 明治大学中野・生田キャンパスで戦争を語り継ぐ意義

→ 戦争と技術、戦争と人材

→ 〈秘密戦〉から戦争の本質を考える



# 明治大学平和教育登戸研究所資料館



**登戸研究所資料館**（2010年3月開館）  
水～土10時～16時開館 入場無料  
生田キャンパス西南門そば

上：外観、右：内部

## 【主要参考文献】

- [1] 伴繁雄『陸軍登戸研究所の真実』（芙蓉書房出版、2001年、新装版2010年）
- [2] 海野福寿ほか編『陸軍登戸研究所—隠蔽された謀略秘密兵器開発—』（青木書店、2003年）
- [3] 山田朗・渡辺賢二・齋藤一晴『登戸研究所から考える戦争と平和』（芙蓉書房出版、2011年）
- [4] 渡辺賢二『陸軍登戸研究所と謀略戦』（吉川弘文館、2012年）
- [5] 山田朗・明治大学平和教育登戸研究所資料館編『陸軍登戸研究所〈秘密戦〉の世界』（明治大学出版会、2012年）